

新しい価値と技術のご提供を目指して

For Providing New Value & Technology

取締役副社長

松田昭信

A. MATSUDA



当社は21世紀への新たなミレニアム(千年紀)のスタートとなる本年、創立80周年を迎えることができました。これもひとえに顧客の皆様はじめ関係各位のご指導とご支援による賜物であり、あらためて厚くお礼申し上げます。

「光洋エンジニアリングジャーナル」も本誌をもって159号を数えることになり、この度、創立80周年記念号として諸先生方の貴重なご祝辞やご寄稿、ご指導のもと、また当社としても新しいビジョンを織り込んだ新たな試みでご提供できますことは慶びにたえません。

また、本誌も創刊以来、当社における新製品、新技術など研究開発成果の一端をご提供し続けてまいりましたが、これらも折々の皆様方の変わらぬご指導ご協力によるものと深く感謝いたします。

顧みますと1962年に国分工場内(大阪府柏原市)に中央研究所(当時)を設立し、当時の、産業社会の高度成長とともに、増大する高性能・長寿命・高信頼性の軸受提供の要請に対応し、R & D活動の取り組みの基礎を確立致しました。

その後ステアリング事業をはじめとする軸受以外の商品の事業展開とともに軸受技術センター、ステアリング技術センター等の組織を整え、陣容と設備の充実をはかる等先駆的新商品の研究開発体制のしくみを確立しました。

その後の環境問題、安全性等を含めた多様化する社会の要請に対応するため、さらには当社としてもこれまでの技術をもとに新たな事業展開を期して1998年奈良工場内(奈良県橿原市)に総合技術研究所を設立し、基礎技術、要素技術以外に電子システム、機械システムなどのシステム技術の開発体制を大幅に拡大強化いたしました。

これらと平行して軸受事業の強化、ステアリング事業の新たなグローバル展開の拡大とともに研究開発面でもグローバルネットワークの整備を進め、日本、欧州、北米との三極体制をも整備し、設備、陣容など名実共にグローバル企業としての体制が整いつつあります。

21世紀は環境技術、情報技術(IT)、システム技術の時代であり、これらを核とした研究開発に重点を置いて取り組む必要性を痛感しております。

この80周年を新たなスタートの年として従来にもまして顧客、ひいては社会に大きく貢献できるよう、基礎技術力の強化と商品の先行開発、研究開発力の充実に取り組み、かつ高品質、低コストへの飽くなき挑戦を続けて行きたいと思っております。そして皆様に新たな価値と技術をご提供し、ご要望にお応えできるよう努力してまいりますので、今後とも尚一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。